

環境部会

楽しかった炭焼き塾

生9 - 環 長谷川 博

久し振りに青空が広がった3月5日(土)シルバーカレッジ中庭で、長寿社会開発センター後援により「親子炭焼き塾」を開催しました。この日参加された親子は25名で、シルバーカレッジの在校生を含む「ケナフの会」20数名のスタッフが指導に参加しました。

この日炭焼きに使用した竹は、さる1月17日、阪神大震災慰霊祭で口ウ

炭焼き塾の間、親たちはわが子の活躍ぶりの写真撮影に夢中でした。参加された親子の感想の一部を紹介します。

ケナフがいろいろな利用方法があるのに驚いた。地球にケナフが役立つということが分った。(10歳、男児)

炭焼きさんの苦勞がよく分かりました。これからは炭を大切に使いたいと思いました。(12歳、男児)

ケナフで作られた炭が、ほかの炭よりも消臭効果が高いこと。またケナフが壁紙や車の内装に使われていることなどを教えて頂いて大変な驚きです。(34歳、女性)



どんな炭が焼けるかな？ 炭焼き塾に参加した親子たち

ソク立てに使われたもので、それにカレッジで栽培されたケナフを使いました。スタッフたちは前日から炭化機への材料を仕込むなどの準備が大変でした。作業のはじめは手が出なかった子どもたちも、スタッフの親切な手ほどきで木槌を持っての仕込みを手伝うなど楽しそうでした。今までしたことのない作業に楽しくなった様です。準備が終わったところで炭化機に火入れしたところ、煙突から大量の煙が出たので、炭が出来上がるまで教室に場所を移しました。

紙芝居「地球くんとケナフくん」を見ながら、子どもたちと地球温暖化を防ぐにはどうしたらよいかを話し合いをしました。また炭のことについて詳しく説明をしたあと、炭化機で焼成した「竹炭」と「ケナフ炭」を御土産にして、塾は昼過ぎに終了しました。

炭焼き体験授業に参加して

生9 - 環 笹井 俊司

「学校林 再び脚光」という見出しの記事が、2月10日の日経新聞夕刊に掲載された。神戸市立君影小学校6年生が総合学習で、裏山の学校林の間伐材を使って炭焼き体験授業の様子が報道された。たまたま私が、炭焼き体験のボランティア指導をしていた時、日経新聞の記者が写真撮影して紹介されたのです。

兵庫県森林ボランティア安全リーダー養成講座に、環境部会の松本義彦会長と参加した際、君影小学校での炭焼き体験指導の要請があったのです。炭焼きは私が昔、おぼえたやり方で、窯に木材を詰め込み、火入れ、窯止め、炭だしを6年生の子ども達に伝え、うまく木炭を焼くことが出来ました。

親子環境学習講座

～こどもエコクラブのつどい～

生3 - 環 中島 洋吉

こうべ環境未来館の環境学習講座

『企業のエコ施設を訪ねよう!』を2月25日(土)神戸製鋼灘浜サイエンススクエアで実施しました。市内の児童館、小学校などを中心に107クラブ2,250名がエコクラブの登録をして実践活動をしています。

「エコスタンプラリー」対象施設の灘浜サイエンススクエアを見学することで、エコクラブ同士の交流を深め、広くエコクラブ活動について知ってもらおうと企画しました。

当日はスタッフを含む102名(子ども54名大人48名)の参加があり、魚崎、細田、渦森台、東垂水の4児童館から日頃行なっているエコ活動の事例発表がありました。

魚崎、渦森台両児童館の子ども達から「ごみ拾いでは、タバコの吸殻が一番多い」、「大人のマナーが悪い」、など耳の痛い報告がありました。1階展示室では遊びながら科学技術の面白さ、不思議さを体感しました。

また「まわす まわる」のテーマで実験があり、各種コマの回転やドラえもんヘリコプターの実験に興味深く取り組んでいました。最後に感想発表、次回の催し物の紹介を行なって、エコスクールを終了しました。

小学校に行っても驚いたことは、この学校には学校林があり、炭窯もあったことです。木炭を生産する窯ではありませんが、修理もされていた立派なものでした。

林の中のそれぞれの木に名札もつけられていました。以前、手入れのされていた時のように、もう一度立派な森を復活させようと、森の倶楽部、地域の方々、シルバーカレッジの在校生および卒業生、小学校の先生たちが努力されていました。

化石燃料の利用による地球温暖化を抑えるための植物の役目は大きなものがあります。

同校では焼いた炭を水質浄化のために役立てたいと、カスミサンショウウオが住む谷川に沈めるそうです。同校の児童たちが、今後とも木に関心を持ち続けてほしいと願っています。